長者中

進んで課題解決に向かう生徒の育成

～「主体的・対話的な学び」の実現を図る授業づくり～

（３年計画の１年次）

校長　蔦　川　　誠

１　研究主題について

学習指導要領では、加速度的に変化し、複雑で将来を予測することが困難となることが予想されるこれからの社会を生きるために必要な力として、「生きる力」が新しく定義された。「生きる力」とは、『自分たちが幸せに生きるために必要なことを、自ら考え、自ら行動する力』である。そして、その力を育むために、学校現場では主体的・対話的で深い学びの実現が求められている。

本校生徒の実態は学年によって異なる。落ち着いた態度で学習に取り組むことができても、主体性や思考力・判断力・表現力等の育成に不十分な面が見られ、生徒同士が更に進んでコミュニケーションをとり、主体的に協力して自他を高め合う学習をつくる必要がある学年があれば、反応がよくても、その場限りで合わせた発言をしているだけで真の意味では理解しておらず、学習後に個人で課題に取り組ませた時の正答率が低いため、より深い理解につながるような学習活動を必要とする学年もある。共通しているのは、授業における達成の喜びが、次の活動への意欲に十分に結びついているとは言い難く、学習後の達成感が家庭学習も含め次の活動につながるような工夫をする必要があるということである。

そこで、今年度からは、「進んで課題解決に向かう生徒の育成」を校内研究主題とし、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うこととした。各教科・単元の特性を踏まえながら、学校教育における質の高い学びの実現を目指して、授業づくりの研究を進めていきたい。

２　研究のねらい

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業展開の工夫を、教員が共通理解のもと同一歩調で実践し、生徒の学習意欲、学習習慣、思考力・判断力・表現力に関する変容を明らかにする。

３　研究仮説

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業展開の工夫により、生徒一人一人が主体的に学び、思考力・判断力・表現力を向上させることができる。

４　研究内容

(1) 授業改善に関わる取組

ア　「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業の構想
　（今年度の重点項目：『主体的・対話的』な学び）

イ　つながりを重視した取組
- 授業形態の工夫（級友とのつながり）
- 板書の構造化（知識同士のつながり）
- ＩＣＴの効果的な活用（教材とのつながり）
- 家庭学習課題の効果的な設定（授業とのつながり）

＊３人１組のグループによる相互公開授業において、授業改善の工夫について研究する。

(2) 校内研究を支える力としての共通実践

ア　教師側の「授業の視点」を取り入れた授業実践
＊年２回のアンケートで取組状況を確認する。

イ　生徒側の「学習の約束」に対する意識の向上
＊学習委員会による取組及び年２回のアンケートの実施により、変容を確認する。

ウ　キャリア教育の視点に立った支援
＊生活記録ノート「私のあゆみ」を活用して、各教科学習の意義の理解や日常的な自己管理能力の育成を図る。

５　研究の経過

(1)　研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・授業者等
7	7	教育指導課・総合教育センター計画訪問
１０	２５	授業研究　授業者：進藤
	２６	授業研究　授業者：栗橋
	３０	授業研究　授業者：松田
１１	２１	授業研究　授業者：小山内
	２２	授業研究　授業者：馬場
	２９	授業研究　授業者：立場
	３０	授業研究　授業者：庄内
１２	１３	授業研究　授業者：三浦直
1	２２	授業研究　授業者：館
	２９	授業研究　授業者：鈴木久
	３１	授業研究　授業者：大久保
2	1	授業研究　授業者：須藤
	7	授業研究　授業者：鈴木隆
		授業研究　授業者：三浦留、泉山、沼岡

(2)　一般研修

月	日	内容・講師・概要等
8	１８	特別支援学級の授業づくり及び特別な配慮を要する生徒の支援について 講師　特別支援アドバイザー　上澤　司　氏
8	２１	保護者への対応 講師　青森県総合学校教育センター指導主事　根城　亮輔　氏

６　研究の成果

(1) できる限り同じ教科または技能教科の教員同士で３人１組を作って相互公開授業を実施することで、「主体的・対話的な学び」の授業改善に向けて、より深い話合いができた。

(2) アンケートの実施により、教師の授業改善や生徒の変容の状況を把握できた。

(3) 学習委員会の取組により、「学習の約束」が昨年度よりも生徒に浸透した。

７　研究の課題

(1) 早めの計画・実施により効果的な実践研究を進めたいが、行事と日々の業務に追われ、公開授業がどうしても後半に集中してしまう。

(2) 生活記録ノート「私のあゆみ」でタイムマネジメント能力を身に付けさせる取組を継続したが、学級での指導が徹底されないため、定着しなかった。そこで、教員間で話し合い、来年度は「私のあゆみ」に ToDo リストを導入し、やるべき作業に優先順位をつけて整理させる取組を実践する。

(3) 授業とのつながりをもたせた家庭学習課題の出し方の工夫については、教科担任も様々な工夫をしており、学びの連続性を意識しながら宿題や自主学習に取り組む生徒も若干増加している。しかし、課題の提出率は教科や課題の内容によって差が大きい。家庭学習に取り組ませるための工夫は来年度も継続する。

（記入者　立場　里香）